

令和6年3月18日

鈴木ひでし委員

私からは、1年間通して皆様方にお世話になりました。その中で気がついたことを、あまり細かいことはもう質疑でお話ししましたので、全体を通してお話しさせていただこうと。

第1点は、質疑の中でもお話ししましたが、いろんな書類が出てくる。しかし、その中に政令市が入っているのか入っていないのか全然分らない。これは質疑していても、政令市が入っていることと、入っていないことでは質疑の内容が全然違ってくると思いますので、以後、資料等々にはしっかりと明記をいただきたいというのが1点。

次は、職員の働き方改革について、私はいろいろまた質疑をさせていただきました。

だけれども、これは、私は教育委員会の方を見ていて、調査をいっぱいやられる。しかし、調査をして、その後どうしてどうするんだというのが、私あまりないと思うのよ。調査はいっぱいやる、だけれども、それどうしてくれるのその後は、というものがない。要は、あなた方よく使われるPDCAサイクルというのがないということだよ。

プランは立てる、実際にどういう形でもってするかとD oはする、だけれども、その後の、やっぱりD oとあとチェックというのは、どのようになっていくのかというのは全然私は見えない。だからいつまでたっても調査の内容はどうだ、それはどういうふうにするんだ、どういうふうにするのっていう結論がなかなか出ないという、PDCAサイクルというのは、私、本当に見えない、失礼ですが部署なんだなというふうに私は思いましたので、ぜひともPDCAサイクルというような言葉、それはしっかりとした形でやらないと、調査される側はいっぱいやられる、だけれども、どうしてくれるのというのは出なかったら、調査なんてまたやるのかよという話になるだろうというのが2点目。

3点目は、私は、教育長は自ら処するという決意を今朝された。だけれども、私はもうそれはそれとして、やはり私はしっかりとした、今後どのようなプランを出すのかというのをお待ちしたいと思うんですね。

例えば、令和3年に、この教職員によるわいせつ事案の根絶に向けた提言というのは、これは有識者の方から出ている。だけれども、有識者じゃなくて、皆さん方から見てどういうふうにするんだという決意が教育長にないと、こんな言い方失礼ですが、有識者はこのようにうたっているというプリントがこうやって配られても、実態が伴わなきゃ何もならない。それは皆さん方の決意として、教育長と共にどうされるのかということをしっかりと出していきたい、これが3点。

4点目は、以前にも私言ったことがあるんですが、本当にいろんな事案が起こる。ところが、現場の校長先生って何していたんだろうなという素朴な疑問が、やっぱり私は出てくるわけです。何なのかというと、やっぱり校務の掌握権と所属職員の監督権という、物すごい、こんな言い方しちゃいけないのかも

しれないけれども、重たい重たい職権を持ちながら学校運営をされている方が、こういうことを起こしました、こういう言い方をしたら失礼になるのかな、50人や60人ぐらいの職員の方々が日々顔を合わせている、その人がどのような人なのか、そしてどのようなことをする人なのか、どういう癖があるのかというようなことを見抜けなかったら、失礼ですが何のための管理職だっていう話になりませんか。

私、いつもテレビ見るたびに思うんですよ。どこの教育委員会の教育長が頭下げている、違うだろうと。そこにきちんと校長先生が来て、事態はどうなんだということを言わなきゃ、その緊張感がないから、私こういうようなことがいつまでも起こるんじゃないか、言い過ぎだったら許してください。これがもう一度するためには、一つにお願いしたかったのは、あまり皆さん方と話して出てくることは、校長先生のマジメント力というのはどうやって高めていくのかというプログラムってあまり聞かれない。失礼ですが、裏を返せば先生というとても難しい、ある意味で専門をされている先生といわれる方々を統率していくための、管理職としての能力というのは物すごいものがやはり問われるはずだろうと。そうであるならば、もっともっと厳しいプログラムというのがあって、校長先生も日々、例えば自分の腕を磨くというようなものがあっていいんじゃないかというふうに私は思いました。

今回、この教育長のお話をお聞きしていて、もう一度また、もちろん教育委員会も御苦労いただいていますけれども、また教育というのは百年の計というから、あんたがそんなこと言うけれども、そうそう結果なんか出ないよとおっしゃるかもしれないけれども、もうそんな時代は終わった。今、本当に、喫緊のことを次から次に求められている時代であるということも併せて、具体的なやっぱりプランを出していただきたいというお願いをしておきたいと思います。

また、細かいことですが、かながわ読書のススメ、ここで私もお話し申し上げましたが、今まで本を見てどうのこうのって、二宮金次郎みたいな時代だけじゃない。今やっぱり S p o t i f y とかまたオーディブルなんか見て、要するに聞く読書というのもどんどんどんどん進んでいる。同時に、この前の新聞報道でもあったように、書店をどうするのかというようなプロジェクトも国は始まる。要するに、環境環境でもって読書読書って言ったって、その環境に満たされないところの人たちを、どのように持っていくのかというようなことをしっかりと対応しながら、聞く読書、これをしっかりと入れていただきたいと思います。

また、神奈川の学校教育等情報化推進計画、これ見させていただいて、私が一番心配しているのは、政令市と県所管の地域の方の I C T 格差って本当にないのかという思いがすごく私しております。これ、もしあったとしたら大変なことだと思います。

先日、皆さん方も御覧になったと思いますけれども、この3月13日の新聞で、これからの G I G A スクールの構想の運用を、この夏から今までの市区町村から県が担うという報道が出ました。そうであるなら、この推進計画だって、こんなだらだらだらだらと文章書いていないで、もっときちっとした概略をつけて、どのようにもっていくのかというようなものがあっておかしくない。私、

そのように思いますんで、ぜひともその点よろしく願いを申し上げたいと思います。

もう一つ、フルインクルーシブについて、今の先行会派のお話もありました。

先日、私、地元の支援学校に行かせていただいた、卒業式に。本当にお一人お一人、障害は違うし、お一人お一人を一生懸命、支援学校の先生と、そして保護者の方が、温かく温かくしている姿を見ていて、本当にフルインクルーシブというような、わざわざもう一つ何か全員が学ぶのだというようなことを打ち出さなきゃならないものなのかと私は逆に思いました。

例えば、インクルーシブの中でも、当然、失礼ですが普通学級の中に入れない方がいらっしゃるから、わざわざ父兄の方々や保護者の方々が支援学校に入学させたんだと私は思うんです。その気持ちもまた大事にしなきゃいけない。同時にまた、質疑でも申し上げましたが、ダブルスタンダードにならなきゃいいなど。どういうふうに見たらいいんだというようなことになっていったときに、やはりイタリア等の、教育長が出されたけれども、繰り返すようですが、あれは国がやった、それも5,000数百万の人口の中でもってやれた。だけれども、果たして今そこをやることなのかというようなものも思いますので、こんな視点もあったということだけ、見ておいていただければ幸いかと思います。

また、1年を通じて県の教育委員会は、Gメール問題もお話ありました。ただ私は、あの中でもって思ったことは、繰り返すようですが、県庁や、また教育委員会の方々のデジタル知識やICT知識ってどれだけあるんだろう。私、グーグルの話をさせていただいた。5,000通以上ばらまいたら全部それ、はじめますよというようなことが分かっていたら、もう、すぐ対応方ができたんじゃないか。それさえも分からなかったって一体どういうことなんだろうという思いがしております。

そういう意味では、もう一度また、幹部の方々にも私お願い申し上げましたけれども、やはり今後のよりICT、またはデジタルというとても流れができた上においては、この教育というようなものを職員自ら、また教育委員会自ら皆様方にやっていただきたい、お願いをしておきたいと思います。

最後に、かながわブランドデザインについて質疑させていただきました。

4年間なんて何が起こるか分からないぞと私言っていて、こんなんでいいんですかというお話をさせていただきましたけれども、確かにそうだなと。先般また出ていたけれども、グーグルの実質的にAIの開発者がすごいお話をされていて、この方が数年内にAIを超えるAGIという汎用の人工知能、人間と同じような知能がもう数年内にできますよと。これはどんなことでも対応できるようなものになっている。物すごい勢いで時代は変わっていて、かながわブランドデザインなんて私見ていたけれども、本当に社会の激しい動きについていけるのかなということで、予算委員会でもやらせていただきました。

だけれども、やっぱり教育委員会におかれましても、将来こういう方たちがAGIというような時代を同時に超えて、シンギュラリティという人間を超えるかもしれないというような話まで出てきている時代に、教育委員会としてどう対応されるのか、そういう時代をぜひともしっかりとまた対応いただきたいことをお願い申し上げたいと思います。

以上をもちまして、公明党県議団として、いただいた諸議案について賛成を  
させていただきたいと思います。

以上です。